

事業名：新市民会館周辺公園化構想

■事業の目的（300字程度）

水戸市中心市街地に点在する空地・駐車場の緑化とコミュニティスペースとしての活用により、平成31年度に完成予定の「水戸市新市民会館」の事業効果を最大限に引き出し、住民も来訪者も共に楽しめる、明るく元気な「まちなか」づくりを目指す。

■事業の概要（300字程度）

新市民会館周辺の空き地や駐車場を順次借上げ、芝生公園化する。日常的には広場は一般開放し、地域の方々や来訪者に、コミュニティスペースとして自由に使用して頂く。週末にはマルシェや各所イベント会場として使用する。その際の出店料等は有料とする。なお、芝生化に当たっては、国の「プレイスメイキング事業」を活用し、また、芝生張りは、地域のお子さんたちによるイベントとして実施する。

■社会的課題の現状アプローチ（図表可）

※解決が必要な社会的課題とは、どのようなものですか。

※この課題を解決するために、本事業ではどのような着眼点でアプローチしようとしていますか。

課題

- ①新市民会館には2000人収容のホールが整備されるが、専用駐車場の収容可能台数は300台に過ぎない。
- ②したがって多くの来訪者は、まちなかに点在する個人経営の駐車場に自家用車を止め、新市民会館まで徒歩で来場することが想定されている。
- ③しかし、新市民会館周辺は、空地や駐車場は多いが、気の利いた店舗も少なく、多くの来訪者にとって、徒歩での移動は面白味のない、苦痛になる事が予想されている。

着眼点・アプローチ

- ①周辺の殺風景な空き地や駐車場を、芝生広場に変え「潤い施設」としてよみがえらせる。
- ②芝生広場ではマルシェやイベントを開催し、住民も来訪者も共に楽しめる、明るく元気な空間づくりを進める。
- ③さらに、芝生広場への集客を活かし、周辺エリアを元気づけ、空き店舗対策の促進につなげる。

■具体の事業内容（図表可）

※上記の課題を解決するという観点から、事業の内容をご説明ください

■公共用地を含む空き地の活用（芝生化等）による「たまり場」づくり。

【空き地の芝生化等の実践】

- ・住民参加（利活用・維持管理）による取り組み
- ・自分たち好みにカスタマイズして自分たちの場所に

■定期的にマルシェやバザール、イベントを展開する。

【マルシェやバザール、イベントの展開】

- ・生鮮食料品や雑貨等のマルシェ、バザールの定期的な開催
- ・各種イベントの開催

■通りの「コミュニティ道路化」に合わせた沿道商店街の活性化支援。

【歩いて楽しい商業空間の創出】

- ・水戸市等によるコミュニティ道路の促進
- ・沿道空き店舗のリノベーション・テナント誘致等

■実施による効果

※この事業を実施することで、社会的課題はどのように解消される見込みですか。

- ①市民会館への集客をサポートできる。
- ②有効活用されていない資源を、地域の宝に変え、潤いある集客空間に変える。
- ③まちなかで手に入りにくくなっている日常必需品を扱う「場」が出来る。
- ④中心市街地の活性化に貢献できる。

■事業の特徴・革新性

※既存の取組と比べてどのような点が特徴的ですか。

※従来の方法と比べて革新的と思われるのはどのような点ですか。

- ①既存の、有効活用されていないものを、使い方を変えることで、有効活用できる資源に変える。
- ②子供たちを含む地域住民参加型での芝生化で、地域にとって馴染みのある施設に早変わりさせる。
- ③マルシェやバザールなどの開催によって、まちなかで不足している生鮮食料品などの日常必需品が容易に手に入るようになる。
- ④今まで殺風景だったところに、集客力のある潤い施設が誕生することで、周辺エリアでの空き店舗対策、商店街の活性化に弾みがつく。

■今後の展望

※この事業に対する今後の展望をご記入下さい。

株式会社まちみとラボは平成28年11月に設立された。スタートアップにあたり、「地方創生推進交付金」による支援を受けている。平成28年度は「調査を主体とした事業展開への準備」、29年度は「本格事業に向けた助走」、そして30年度は「採算性・持続性確保に向けた事業展開」である。この3年のうちに、しっかりした下拵えをし、4年目からは自走できる事業展開を目指す。